

地域を元気に

中頓別コミュニティレストラン

中頓別町の11人が参加した1泊2日のコミュニティレストラン道内先進事例の見学ツアー一行が、2日目の昨年12月11日に訪れたのは登別市の地域食堂「ゆめみぐる」。

「住民自身で地域の課題を解決しようというのが店の始まりです」。運営するNPO法人の山田正幸事務局長は、一行にそう説明を始めた。

発端は、登別市社会福祉協議会が2005年に市地域福祉実践計画策定のため行ったアンケートで、食堂があ

④ 集い、憩い、支える

る幌別鉄南地区の課題が浮き彫りになったこと。同地区は高齢化が著しく、「高齢者、子育て中の母親、障害者らの居場所がない。人と話す機会がない。買い物に行きたくても足がない。この三つが地域の課題だと分かった」と山田事務局長。そこで地元町内会を中心に約30人でNPOを設立して08年11月に開店。1階の食堂では、

そばや野菜中心のヘルシーな「特製定食」などを提供し、お茶だけ

そばや野菜中心のヘルシーな「特製定食」な飲みに来ても良い。2階は、子育て中の主婦や高齢者が自由に集え

るサロンで、放課後児童クラブなども開設。地元産品の朝市や高齢



マチの声に耳傾けて

登別市の地域食堂ゆめみぐるを訪れた中頓別からの見学ツアーの一行

者らに安否確認を兼ねた昼・夕食の配食サービスもしている。

全国でもコミュニティレストラン数が多い道内だが、これほど多機能で地域福祉を幅広く担う例はまれ。課題解決型のお手本とも言える。

「一つの施設でこれだけの役割を果たしていることに驚いた」「中頓別でも、世代を超え気軽に集まれる場所があると良い」「子連れでもくつろげる井戸端

の一行からはそんな声が上がった。

中頓別で町の委託を受けコミュニティレストランを開設する公衆浴場・黄金湯の経営者渡辺由起子さんは「ゆめみぐるの例からも、地域の課題やニーズを把握することは大切。町ともしっかり連携したい」と語る。

そのためには「コミュニティ運営協議会といったものを組織したい」とも付け加えた。また構想段階だが、町や町民らに参加してもらい、運営方針を決めたり応援団になってもらうための組織だ。

渡辺さんは「こうした協議会などを通じ、マチの声に耳を傾けながら運営を進めることで、私たちのコミュニティの公共性を高められたらいいですね」と話している。